

〔續世繼二鳥羽の御賀〕この院羽鳥世を去らせ給て、ひさしくおはしまし、略中この為のみかど、東宮にてまなめしける夜にはかに内へ御幸とて、殿上人せうくがふりして、よにいりてきたの陣に御車たてさせ給て、權大納言源雅定大將にまかりならん事わざと申うけにまゐりたると申いれさせ給へりしかば、さてこそやがてその夜なり給けれ、

〔山槐記〕應保元年七月四日、或人來曰、鴨水泛溢、依御幸所渡之橋不可叶云々、然而猶以御幸白河子法勝寺、裸形之輩相副御車、又公卿殿上人各相具裸形之輩數十人渡也、大納言殿不令供奉給、兼駕車令渡給、前駟等設車被渡云々、

〔吉記〕承安四年八月八日壬戌、臨夕院白河後御幸八條院、公卿按察納言以下兩三人、殿上人八九輩供奉、事不及廣也、自去比、被始行百日御念佛、爲御聽聞、令渡給云々、

〔玉海〕治承元年八月十日丁丑、今日法皇白河後亮闈之後、始渡御八條院、璋子後白河姉、二條公卿直衣、殿上人布衣二人、束帶之輩少々相交云々、未刻渡御、酉刻還御云々、有御引出物、金泥小字經、大般若一部、慈覺大師獨古云々、

〔源平盛衰記十〕中宮御産事

治承二年十一月十二日、寅時ヨリ中宮高倉后德子御産ノ氣オハシマスト筈ケリ、略中法皇白河後モ西面ノ北ノ門ヨリ御幸アリ、略中法皇モ内々ハ、御祈有ケリ、又見平家物語

〔百練抄十一〕元久元年正月九日、今日上皇鳥羽後皇子、被下親王宣旨、略中於宜陽門院御所、有御著袴事、上皇御幸、攝政藤原眞經、右大臣藤原家實、已下參入有御遊、

〔増鏡七〕北野の雪、十二月一日、四年文永ころ、皇后宮龜山后借子又御産とて、天下さわぐに、えもいはぬ玉のをのこみ、後字多院中院嵯峨もいそぎ御幸ありて、もてはやしたてまつらせ給、

〔勘仲記〕建治二年十二月廿二日、今日若宮御降誕以後、御行始也、上皇龜山并新陽明門院龜山妃位子御